

(発行 2017年 12月 12日)



12月19日 (火) 4時台放送
NHKラジオ深夜便・明日へのことば「親子二代の日中交流」
出演・NPO法人日中新世紀協会前会長
岡崎 彬 (おかざき・あきら) さん

今年は、日中国交回復45周年の節目の年。1月に、元中国大使の丹羽宇一郎さんに、12月に、岡崎彬さんのお話をさせていただくことになり、1年の初めと終わりに中国関係のお話になり、不思議な気がします。

岡崎彬さんのお話のきっかけは、岡崎さんの父、岡崎嘉平太さんの言葉を、偶然知ったことです。その言葉というのは「信はたて糸、愛はよこ糸、織り成せ人の世を、美しく」という言葉です。人と人の信頼、相手を思いやる心が、人間にとっていかに大切な事か。社会にとって一番大事なことではないかと感動しました。番組企画を出した時、「岡崎嘉平太って誰」という反応で没。私の世代では知られた実業家も、若い人には、ほとんど知られていない人でした。こういう人物もいたことを、ぜひ知って戴きたいと、再提案し、やっと採択されました。昭和初期、中国は、国内の混乱もあり、日本も含めた西欧列強に、差別的な立場に置かれていました。2000年を超える交流からみても、日本と中国は手を取り合って、アジアの発展に協力していかなければいけないというのが、岡崎嘉平太さんの考えでした。息子の彬さんは、父の仕事の関係で、中国上海の小学校を卒業しました。当時、子供達の遊びは戦争ごっこ。彬さんは、中国人の子供にけがをさせてしまい、夜帰宅した父、嘉平太さんに連れられ、謝罪のため広い荒野を歩き、何軒も農家を探しまわったと言います。

10時頃、暗い中をやっと見つけ、その子の家の玄関で、親子そろって土下座して謝りました。夜、突然訪れた日本人に、中国人家庭のおびえた様子が、子供の彬さんも感じたという事です。暗い夜道を帰る時、「もし君が、相手の立場だったらどう思うか」の父の一言が、今も忘れられません。中国人と常に公平、対等の立場で接するという考えは、日中交渉でも発揮され、周恩来総理との信頼関係が深まり、田中訪中の訪問団に、岡崎嘉平太の名前がないことを知った周恩来が、その2日前、岡崎さんを北京に呼び、慰労の食事会を開きました。周恩来は、「我が国には、水を飲むとき、井戸を掘った人を忘れないという言葉がある、、、」と何度も切れそうになった日中交渉の10年来の労をねぎらいました。息子の彬さんも昭和38年、父に同行し、周恩来総理と握手をし、その人柄に感動したと話してくれました。その彬さんも、88歳。現在、自宅療養で寝たきりですが、お許しをいただき、貴重なお話をさせていただきました。

◀編集室から tchieko@cocoa.ocn.ne.jp ▶

◆感想の送り先 坂口憲一郎 〒703-8233 岡山県岡山市中区高屋184-4

TEL : +81 086 273 8816 / E - Mail : sakaguchi@ninus.ocn.ne.jp